

竹島に出漁を敢行

韓國人最近上陸の形跡なし

隠岐島五箇村では昭和二十八年六月竹島に設定した共同漁業権を三日縣係員の指導ではじめて行使、同島で本格的な漁獲作業を行った。一日隠岐島五箇村久見漁港を島根縣漁業取締船島風(五三ノII船長松村吾吉氏)に漁具、小舟五隻のほか、久見漁協組合長脇田敏氏(三ひ)ほか十四名の漁業者と漁業指導のため重田縣水産商工部次長、井川水産課技師らが乗船出発したが、シケのため島前別府港に避難、二日夜十一時ごろ同港を出発、三日朝十時半竹島に到着、ただちに操業を開始、一日がかりでワカメ二千貫のほかアワビ、サザエなど二十貫の収穫を得て四日午

前九時半ごろ五箇村福浦港に帰つた。関係者の話を総合すると竹島のワカメはほとんど毛センを敷詰めたようで、約百万円相当が繁殖してゐるといわれ、名物のアシカは約二、三十頭を目撃、相当数が生息してゐるもよう。同島には最近韓国人が上陸した形跡はなく、隠岐五箇村の領土標柱も無事残されてゐたこともわかつた。

◇重田次長談 隠岐島漁民の熱望だつた竹島出漁は李ライン問題発生以來実施不能のまま見送られてきたが、竹島はちようどワカメの刈取り期になつたので漁民は傍観できないと出漁団が組織され、縣の指導下に出漁を取行したわけだ。

隠岐島五箇村では昭和二十八年六月竹島に設定した共同漁業権を三日縣係員の指導ではじめて行使、同島で本格的な漁獲作業を行った。一日隠岐島五箇村久見漁港を島根縣漁業取締船島風(五三ノII船長松村吾吉氏)に漁具、小舟五隻のほか、久見漁協組合長脇田敏氏(三ひ)ほか十四名の漁業者と漁業指導のため重田縣水産商工部次長、井川水産課技師らが乗船出発したが、シケのため島前別府港に避難、二日夜十一時ごろ同港を出発、三日朝十時半竹島に到着、ただちに操業を開始、一日がかりでワカメ二千貫のほかアワビ、サザエなど二十貫の収穫を得て四日午